ひらどだい

令和元年度学校だより１２月号　　横浜市立平戸台小学校校長　　柴﨑　美佐

書くことは考えること

校長　柴﨑　美佐

学校に向かう長い坂道に、今年もサザンカの花がほころび始めました。ここの花々は毎年春先まできれいに咲いて、通る人々の目を楽しませてくれています。

サザンカの花が寒い季節を選んで咲くのにはわけがあると、先日新聞のコラムで読みました。鳥のえさとなる虫がいなくなる冬には、サザンカの花の蜜に集まる鳥が増える。ですから、むしろ冬はねらい目なのだというのです。競争相手の少ないこの季節に目立つよう赤い花を咲かせ、鳥を誘う植物の知恵に、「なるほど。」と感服しました。

さて、今年も横浜市中の小学生の作文から作品を集めた、文集「よこはま」66 号が発行されました。生活文・感想文・創作文・意見文などなど、三千四百作あまりの作文を読み、選び、編集し、何度も校正を加えて仕上げたのは、市内の小学校国語研究会の先生方で、私も編集委員長として関わっています。毎年小学生の作品を世に送り出し、何とこの文集は 66 年も続いているのです。そして、市内の各学校の図書室や教室に置かれて活用されたり、希望者に販売されたりしています。

以下に、横浜市小学校国語教育研究会長　平井佳江の「はじめに」の文章を引用します。

『文集「よこはま」66 号が出来上がりました。文集「よこはま」は、みなさんのおじいさんやおばあさんが子どものころから、横浜の子どもたちの喜びや生き生きした姿を作文という形で伝え続けてきた、歴史と伝統のある文集です。（略）文章を書くということは、楽しいことでもありますが、つらく苦しい作業であるとも思います。なぜなら、書くことは、自分の心の内を伝えるべく、言葉の力を総動員して行われるものだからです。書くことは、私たちに様々な力を与えてくれます。書く力ばかりでなく、物事を鋭く観る力、物事を深く考える力、自分自身の生き方を創り出す力と数え上げればきりがありません。書くことは、自分で自分を鍛えることなのです。』

平戸台小の子どもたちも、毎水曜日に＜すいすいタイム＞で聞いて書くことに取り組んでいます。12 月 12 日の「40 周年おめでとうの会」には、子どもたちが書いた学校に送るお祝いメッセージで埋め尽くされた大きなケーキが披露されます。

書くことは、見つめることです。五感を働かせて感じることです。そして考えることです。ときには、自分自身と向き合い様々に考えを巡らせることも必要です。『自分で自分を鍛えること』とあったように。

平戸台小学校の子どもたちには、是非市内の小学生の作文の豊かな表現に触れ、自分らしい表現を工夫したり、書くことを生活の一部として楽しんだりする子どもに育っていってほしいと願っています。書くことは考えること。難しそうですが、「作文のたね」はそこら中に転がっています。自分だけの作文の木や花に育てていけたら素晴らしいことです。（文集「よこはま」66 号は追加申し込み受け付け中です。）

【校長の目標「休日に旧東海道を歩きとおします」…滋賀県草津宿に着きました。中山道が合流する場所です。11/25 現在】